令和７年度第２回

札幌市男女共同参画センター運営協議会

会　　議　　録

日　時：令和８年（２０２６年）３月４日（水）午前１０時開会
場　所：オンライン開催

１.開　　会

○事務局（伊藤主任）

これより第２回令和７年度 第２回札幌市男女共同参画センター運営協議会を始めます。

２.委員紹介

○事務局（伊藤主任）

まず初めに、資料を確認させていただきます。

札幌市男女共同参画センター運営協議会第２回式次第

資料１、札幌市男女共同参画センター運営協議会要綱

資料２、札幌市男女共同参画センター運営協議会委員名簿

資料３、令和 7 年度札幌エルプラザ公共４施設管理運営報告

資料４、令和 7 年度札幌市男女共同参画センター事業実施報告

資料５、令和 8 年度札幌市男女共同参画センター事業実施計画

資料６、意見交換会資料となっております。

不足している資料などがありましたら、事務局までお知らせいただきたいのですが、皆様、全て大丈夫でしょうか？

（不足なし）

ありがとうございます。続きまして、連絡事項を申し上げます。

本日の運営協議会は、札幌市男女共同参画センターのホームページに議事要旨を掲載させていただきます。それに伴い会議の様子を録画させていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

改めまして、本日はお忙しい中、ご出席していただきまして、誠にありがとうございます。令和７年度第２回札幌市男女共同参画センター運営協議会を開催させていただきます。

議事に入りますまで、進行を務めさせていただきます、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画課主任の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして、札幌市男女共同参画センターの指定管理者となります、公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画部長、札幌エルプラザ公共４施設館長の髙坂よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

２.開　会

○開会挨拶（髙坂部長）

皆様おはようございます。本日はお忙しい中、令和７年度 第２回札幌市男女共同参画センター運営協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

札幌エルプラザ公共４施設館長の髙坂でございます。日頃より委員の皆様にはセンターの運営に多大なるご理解とご協力を賜っておりますこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

前回の協議会から早いもので、半年以上が経ちましたけれども、本日の第２回目は、今年度の事業の進捗及び、施設運営状況のご報告とともに、次年度の計画についてご説明をさせていただきます。

第１回の協議会では、委員の皆様よりジェンダーバイアスが固定化される前の小学生などの早い時期へのアプローチの重要性や、響いてほしいターゲットに届けるための言葉選びの工夫、さらにはジェンダーと他の要素を掛け合わせた切り口を用いるなどのご意見をいただき、改めて事業の質を問い直す貴重な機会となりました。

本日の会議でも皆様から多くのご意見をいただければ幸いに存じます。

当センターが男女共同参画社会実現の拠点として、しっかりと役割を果たせるよう、本日も忌憚ないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします

３・委員紹介

〇事務局（伊藤主任）

ありがとうございました。次に、札幌市男女共同参画センター運営協議会委員の皆様を事務局よりご紹介させていただきます。

株式会社アワシャーレ 稲葉委員。

株式会社北海道新聞社 関口委員。

特定非営利活動法人Ａｓｙｌ　代表 波田地委員。

札幌学院大学人文学人間学科学科 教授 横山委員。

札幌市市民文化局市民生活部男女共同参画室男女共同参画課 課長 青田委員。

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画部長 髙坂委員の６名の皆さまの出席となっております。

なお、岸本委員、田中委員につきましては、ご都合により欠席のご連絡をいただいております。

また、本日は所管課であります、札幌市市民文化局市民生活部男女共同参画室男女共同参画課担当の本條さんにも同席していただいております。

よろしくお願いいたします。また、事務局として当財団市民参画課男女共同参画センターの職員も同席させていただいております。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、この会議の目的など、設置要綱に沿って事務局より説明させていただくところですが、前回と同様の内容となっておりますので、割愛させていただいてよろしいでしょうか。

（異議は無し）

続きまして、本協議会は運営協議会設置要綱第５条に基づき、委員の半数以上が出席しておりますことから、会議の開催が成立していることをご報告いたします。

この後の議事進行についてですが、札幌市男女共同参画センター運営協議会設置要領第６条に基づき、指定管理者または指定管理者が指名した者とすることになっておりますことから、この後の進行も事務局で進めさせていただきたいと思っておりますが、異議はございませんでしょうか。

（異議は無し）

３.議　　事

○事務局（伊藤主任）

それでは、令和 7 年度第 2 回札幌市男女共同参画センター運営協議会の議事に入らせていただきます。

本日は令和 7 年度の事業計画進捗報告についてのご報告ならびに令和 8 年度の計画についてご説明いたします。

後半には「『自分事化』から始める地域と組織のジェンダー主流化に向けた事業の展開について」をテーマに委員の皆様からご意見を頂いきたいと考えております。

どうぞ、忌憚のないご発言をいただければと思います。

それでは、札幌エルプラザ公共 4 施設の令和 7 年度管理運営に関する報告について、事務局の岩崎より報告いたします。よろしくお願いいたします。

○事務局（岩崎主任）

市民参画課札幌市男女共同参画センター主任の岩崎です。私より、令和 7 年度の共通事業報告と施設利用運営状況、令和 8 年度の施設利用に関する数値目標についてご報告させていただきます。

はじめに、今年度の施設利用状況についてご説明いたします。

令和 7 年度利用人数総数ですが、目標値 54 万 2,000 人に対し、 1 月末現在の総利用人数は 42 万 6,026 人で、目標値に対する達成率は 78.6%となっております。こちらに 2 月と 3 月の利用実績が加えることで、今年度は最終的に 51 万 5,000 人程度、95%程度と見込んでおります。

利用人数の伸びがやや鈍化している要因としましては、有料貸室の利用率全体が横ばいであること、1 回あたりの利用人数がわずかに少なくなってきていること、LED 工事に伴い部屋を貸出禁止にしていること、昨年度、札幌市北区様からの受託で実施したイベントの減少による、エントランス利用人数の低下と考えております。

貸室の存在をより幅広い層に届けるための新たなアプローチとして、 1 月から 3 月にかけて Google リスティング広告を実施いたしました。これは、特定のキーワードで検索をした際、検索結果の上位に表示されるインターネット広告です。今後、この広告の効果検証を行います。

その他、次年度以降につきましても、 11 月から始まった割引料金の広報やホームページへのより分かりやすいアクセスや貸室の表記を継続し、広く周知を図るとともに、どのようなツールを用いれば幅広い層に最も効果的に届くのか、引き続き検証と改善を重ねてまいります。

また、全体運営の共通事業、特にエントランスでの賑わい創出として、昨年度に引き続き市民の方からご寄付いただいたピアノを活用し「みんなのピアノ広場」と銘打ち、ストリートピアノ事業を実施しております。

さらに、貸室登録団体がメンバー募集や PR 活動を行う場所として「広報スペース」がございますが、 2 月から新たな試みとして、このスペースを利用している団体を対象に、エントランスでの活動の成果発表できる場を提供する「作品展」事業をを実施しております。

このほか、3 月 20 日、21 日には子どもたちが遊ばなくなったおもちゃを持ち寄って交換したり、交換して貯めたポイントを使ってワークショップが体験できる「かえっこバザール」という事業を実施いたします。

これらの取り組みは、次年度以降も継続的に実施し、人や団体の交流、継続的な利用につながるように努めてまいります。

次年度については、今年度の総利用人数見込みの約 6,000 人増である 52 万 1,000 人を目標にしておりますので、より多くの市民の方にご利用いただけるような方策を継続して実施してまいります。

次に、お手元の資料の利用者アンケート報告をご覧ください。今年度は 11 月 1 日から 11 月 27 日にかけて実施いたしました。経年での変化を比較できるよう、昨年度と同様の質問項目とし、エルプラザ全体で 802 名の方からご回答を頂いております。

男女共同参画センターに関わる結果につきましては、アンケートの 12 ページをご覧ください。こちらのページは、利用者の方が施設を選ぶ際にどのような項目を重視しているか、また利用後の満足度はどの程度であるかを集計した結果です。昨年度と同様に、施設選びにおいて「親切さ」や「窓口、電話などでの直接的な応対」を重要視されている方が多いことが分かります。

また、利用時の総合的満足度につきましては「とても満足」と「満足」の割合を合算した数値が、男女共同参画センターで 92%となりました。昨年度の 93.2%から 1 ポイント下がっているものの「とても満足」と回答していただいた割合自体は、昨年度よりもわずかに多くなっております。札幌エルプラザ公共 4 施設全体での総合満足度についても 93.9%となり、センター全体ともに目標値である 90%を上回り、高い水準を維持した結果となっております。この結果に満足することなく、次年度以降も高い満足度を維持し、引き続き市民の方のニーズに応えられるように努めてまいります。

最後に、施設管理についてご報告いたします。今年度は、札幌エルプラザの新たなロゴマークが完成いたしました。このロゴマークは、「わたしが変わる、社会も変わる」をテーマとし、「対話とパートナーシップで意識と人生に影響を与え、『社会の変化を促す原動力』を育む」というコンセプトのもと、未来へつながる扉をモチーフにデザインされております。

このロゴの完成に伴い、パンフレットの改訂や札幌市様主導による看板のリニューアルも実施いたしました。今後は、作成した新しいロゴを様々な場面で活用し、エルプラザの認知度をさらに高めていきたいと考えております。報告は以上となります。

〇事務局（伊藤主任）

それでは、ここまでの管理運営面に関する報告についてご質問などございましたらお願いいたします。

〇波田地委員

Asyl の波田地です。

お世話になっております。

利用率のお話で、北区からのイベントの受託について減少したという報告でしたが、それはどんな経緯だったのでしょうか。

〇事務局（岩﨑主任）

受託についてはもともと単年度の予定でいただいておりまして、今年度は実施をしないというものでした。そのため今年度としては別のイベントの実施などで、もう少しエントランスの賑わいを創出できればと考え実施していたところではありましたが、思ったように人数が伸びなかったとい

うところになります。
〇波田地委員
　ありがとうございます。
　私の方からは以上です。
〇事務局（伊藤主任）
　ありがとうございます。
　続きまして、令和 7 年度の事業報告及び令和 8 年度事業計画について、事務局の橋本よりご説明いたします。よろしくお願いいたします。
〇事務局（橋本主任）
　市民参画課、事業係主任の橋本と申します。よろしくお願いいたします。
　私からは、令和 7 年度の事業報告ならびに令和 8 年度の事業計画についてご説明させていただきます。まずは、令和 7 年度の事業報告から進めさせていただきます。
　前回の運営協議会で委員の皆様からいただいたご意見等も踏まえ、下半期の事業を実施してまいりました。本日はその中からいくつかピックアップをしてご報告いたします。
　一つ目は、子ども若者エンパワーメント事業として実施した女子中高生向けワークショップです。当事業は、理工系進路を目指す女子中高生を対象に、周囲のバイアスによって自らの選択肢を狭めることなく、自由に未来を描いてもらうことを目的に開催いたしました。当日は、理工系で活躍する女性たちのロールモデルトークや、理工学の実際の体験、キャリアプランニングなど、自分の好きなことが未来につながっていると感じられるプログラムを実施いたしました。また、今回は保護者や教職員も参加できる形をとりました。高校生から親や先生のバイアスを強く感じるといった声や、女性らしくあることを求められて、周りから期待される自分を演じてしまうという悩みを聞くこともありました。子どもに大きな影響を与える大人たちにこそ、バイアスに気づいてもらいたいと考え、一日のワークショップを通して一緒に参加をしてもらう形を取りました。参加した中学生からは、多様なロールモデルと近い距離で交流できたことで、自分の夢を先入観なく応援をしてもらえた、進路や職業を自由に選択していいんだと思えたという声がありました。
　大人向けに実施をしたアンコンシャスバイアスに関する講座についても、家庭内や学校の中での子どもたちとの接し方を振り返る気づきの場となったと感じております。しかし、参加者数の面では、定員には満たず、広報期間の適切さや保護者および教職員への周知が十分であったか、さらに学生にとって参加しやすい時期であったかについての検証が必要と感じています。実際に参加した方や、関係者として関わっていただいた皆様からは、意義のある事業という評価をただいておりますので、どうすれば必要な人に届けていけるかというところを考え、令和 8 年度に繋げていきたいと考えております。
　メインプログラムであるキャリアプランニングでは、グループに大学生サポーターも加わり、対話を通じて一緒に未来を想像する時間を持ちました。プログラムの最後には、描いた未来について中学生の皆さんが全体の前で発表し『修了証』を授与しています。
　二つ目は、健康支援事業として実施をした包括的性教育に関するシンポジウムです。当事業は、これまで北海道内の包括的性教育の実践者の方々にご協力いただき、実施してきた会議の集大成と

して開催したものになります。これまでの各種事業や市民や学校教員に向けた意識調査の結果では、包括的性教育の理解度や認知度がまだまだ広がっていないという課題が浮き彫りになりました。そこで、まずは正しく理解をしてもらうことを目的に、市民の方と一緒に考える機会として実施しました。当日は対面とオンラインのハイブリッドの形式で実施をしたところ、定員を上回る参加がありました。学校の教職員の方や保護者の方のみならず、若年層の参加もあり、それぞれが感じている課題感を共有する機会になりました。一人ひとりが一歩を踏み出すきっかけの提供や、北海道や札幌における性教育の在り方について共に考える機会を提供できたと考えております。どのように子どもたちに伝えていったらいいかわからない、自分自身の学びが足りないというような声も多くあったことから、ご参加いただいた皆様には、包括的性教育の実践者が選ぶおすすめブックリストをお渡しし、今回の事業での学びにとどまらず、今後も活用していただける工夫をいたしました。

今回、これだけの反響を得られた背景には、前回皆様からご意見をいただきましたターゲットに合った広報というところを意識したことも挙げられます。

具体的には広報物に「そもそも包括的性教育って何？」「性について子どもたちへの伝え方で迷うことがある」という具体的に市民の方が抱えているであろう課題感を分かりやすく表記しました。その結果、私たちが想定したターゲット層にしっかり届いていたと実感をしております。また、講師にユーチューバーの方を呼びしたことで、より広い層の方にご参加いただく機会にもなったと感じております。

性教育の課題は実に多様で、北海道や札幌においても必要な取り組みだと再認識をしております。今回築いたネットワークを活かし、次年度以降も引き続き必要な場や取り組みについて考えていきたいと考えております。

続きまして、企業向けセミナー女性リーダー養成研修です。当事業は、リーダーを目指す女性社員の方を対象にした連続講座として、平成 29 年から継続をしている事業になります。今年度は 9 月から全 5 回の連続講座として開催をいたしまして、25 名の方に参加をいただきました。今年度は若い世代の方の参加が多くありました。この研修の大きな成果としましては、参加いただいた方々のマインドの変化と、それを支える企業のコミットメントを引き出せた点にあると考えております。

当初、自分はリーダーになれるのだろうか、リーダーになったけれど自信がなかなか持てないといったような不安を抱えて参加をした方も多くいらっしゃいましたが、全 5 回の実践的なプログラムを経て、企業の中で自分がどのようなリーダーシップを発揮できるのか、自分の視点で考え、言葉にすることができるようになるなど、大きな変化が見られました。

また、本事業で大切にしている点としましては、女性個人の成長を促すだけではなくて、そこに送り出す企業側にもしっかりと関与していただくという点です。具体的には、上司の方に初回と最終回にご参加をいただき研修を終えた社員を今後どうサポートしていくかというところを、最終回にみんなの前で宣言をしていただく、そういった仕掛けも作りました。これによって、企業側が女性リーダーの育成を本人任せにするのではなくて、組織企業の課題として取り組むきっかけを作れたことも成果の一つだと考えております。

当事業の認知度というところも高まってきていると感じていますので、今後も社会の変化や、ニーズに合わせて内容を柔軟にアップデートし、実効性の高い学びの場を提供していきたいと考えております。

三つ目は団体支援事業として実施した女性支援にかかわる支援者講座についてです。当事業は昨年度からスタートした講座になりますが、本年度はさらに内容をブラッシュアップし、計 5 回開催いたしました。この講座は、女性支援に関心のある方に現場の取り組みを伝え、次の担い手を育てていくこと、既に女性支援の取り組みを進めている方には、専門的な知識を深める学びの場を提供することで、日々の活動の質を高めていただくことを目的に実施しました。昨年度、参加者の方の経験知が様々であったことから、内容を分ける等のプログラム構成の改善が課題として残りました。そこで今年度は対象を分けて、これから関わりたい方のための講座と、すでに支援に関わっている方のための講座という二本柱で構成をいたしました。どの回も定員を超える多くの方にお申し込みいただき関心の高さを実感したところです。

支援者の方に向けた講座に関しては、障がい、LGBT、精神疾患、性暴力などさまざまな切り口からジェンダーの視点と支援の実践の両方を学べる構成としました。

講演を聞くだけではなく、グループワークやケースワークを取り入れました。

参加者同士が自身の経験や、課題感を話すことで、対話の中から新たな気づきが生まれる、そういった参加型の学びを大切にしたことで参加者同士のつながりや、終了後の具体的な行動変容といった成果を得ることができました。

これから支援に関わりたい方に向けた講座では、支援においてジェンダーの視点がなぜ必要なのか、どのような支援が求められているのかを学ぶ場として実施をしました。あわせて、支援に携わるために必要な資格についての情報提供を行い、次世代の担い手育成につながる『実際に支援に関わってみたい』という具体的な意欲を引き出すことができました。今後の支援の輪を広げていくという目的において、大きな一歩だったと思っております。

今年度は団体を知ってもらい、担い手を増やすきっかけ作りをしていく目標は概ね達成できたと考えられますので、令和 8 年度については団体そのものを直接バックアップするような団体支援の原点に立ち返った取り組みにも力を入れていきたいと考えております。

そして最後は若年女性を対象にした相談アウトリーチ事業ガールズトークルームです。本事業は、相談するにはハードルは高いけれど、誰かと話したい、居場所が欲しい、そういった中学生から大学生世代の女性を対象に、エルプラザや若者支援施設、4 プラ等で月に 2 回程度開催をしてまいりました。今年度の成果としては、アウトリーチを強化したことで、これまで届かなかった層と繋がることができた点です。今回、よりオープンな場である 4 プラのイベントスペースで実施をしたことにより、参加者がこれまでよりも増加しました。この中にはイベントをやっていることに興味を持って、ふらっと寄っていただいた方もいらっしゃいましたが、これまでガールズトークルームのことを知ってはいたけれど、参加をするということが一つのハードルになっていたという方とつながることができたというのは、オープンな場だからこそ実現した成果です。また、継続的に実施したことで、最初は雑談だけだった方が少しずつ悩みを話をしてくれるようになった、という変化もありました。一方で、少人数で安心感のある場だから話せる、来れるという方もいますので今後は

参加者一人ひとりの変化や、ニーズに合わせて場を柔軟に使い分け、まだ繋がれていない方たちにどのように届けていくかを考え、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

以上で令和７年度の事業報告を終了させていただきます。

続きまして、令和８年度の事業計画について説明をさせていただきます。

次年度の重点取組事業として取り上げていますのが、子ども若者のためのエンパワメント事業と企業向けセミナー、そして団体支援事業になります。

子ども若者のためのエンパワメント事業につきましては、より早い段階でのアウトリーチによるアプローチを意識し、小中学生に向けての啓発を進めていきたいと考えております。

前回の運営協議会では、アウトリーチ先として小中学校といった義務教育課程への働きかけが重要であるという声を頂きました。これまで中学生や高校生向けの出張講座には力を入れてまいりましたが、小学生のアプローチという部分では十分な展開はできていないという課題もございました。令和８年度からは、当財団が管理運営を行う児童会館や若者支援施設と連携し、ワークショップなども取り入れながら、小学生に向けたアプローチも新たに展開をしていきます。

また、先ほど報告いたしました女子中高生向けのワークショップでは、大人への啓発も非常に効果があったと感じておりますので、子どもへの早期のアプローチのほかに、その成長を支える保護者や教職員に対しても同時に働きかけをしていくことが必要だと考えております。

今後は子どもと大人の両面を見据えた取り組みを進めていきます。

企業向けセミナーについては、先ほど報告した女性リーダー養成研修を中心に、企業向けの講座を幅広く実施してまいりましたが、令和８年度はさらに発展をさせていきたいと考えております。

具体的には、引き続き社員向けのリーダー研修を提供していきながら、自主事業として運営をしてきたジェンダーコレクティブ北海道との連携をさらに強め、経営層や役員層を対象とした事業にも重点的に取り組んでまいりたいと思います。昨年度開催したダイバーシティ推進の交流会では、企業同士がジェンダーやダイバーシティという共通の言語でつながりを持てたことが大きな成果となりました。企業の方からは、他社の事例を知るための横のつながりが欲しいという声も多く頂いておりますし、他社の取り組みを知ることが新たな一歩につながるという、循環も生まれてきていると感じております。

次年度は知識を届けるような啓発の事業とコミュニティを作っていく事業の両輪で進めていきたいと考えております。

団体支援事業及び団体ネットワーク事業についてです。団体支援事業は、団体が活動を継続していくため支援という原点に立ち返った取り組みを実施してまいります。札幌市内には様々な力強い女性支援団体がありながらも、人材や資金の不足によって団体の活動の継続が難しくなってしまう、活動の幅が狭まってしまうという喫緊の課題感もあります。今、団体がどのようなことに困っているのか、どんな課題感があるのかというところもしっかり捉えながら必要な学びの場を作ってまいります。

また、団体ネットワーク事業では団体同士のネットワーク構築のための取り組みをさらに進めてまいります。前回の協議会では団体のネットワークが広げていくだけでなく、ソーシャルアクションへの支援が重要であるというお声もいただきましたので、次なるステップを考えております。

当センターは、若年女性支援ネットワーク Cloudy の事務局としてネットワークづくり等を行ってまいりました、これまでは困っている女性に直接物資支援を行うという支援が主でしたが、昨年度からはもう少し女性たちの困りごとを深く聞き取り、適切な支援につなげていくような形へと変化をさせております。次年度からは、さらに踏み込んで、女性たちの声を社会にどう届けていくのか、ネットワークとしての次のアクションも検討をして、実践をしてまいりたいと考えております。私からの報告は以上になります。

○事務局（伊藤主任）

それでは、ここまでの事業報告、事業計画に関する報告についてご質問がございましたら、お願いいたします。

○稲葉委員

質問させていただきます。

実績と来年度計画について、２つあります、特に企業に向けて来年度計画の企業向けのセミナーなどについてです。

今年度の中では、女性のリーダーの研修の他に、自治労さんであったり、ホクレンさん、ゆうちょさんというところ、さらに地方自治体や官公庁では国交省さんなどが、これに相当するかと思っております。

今年度の実績を元に、来年度企業向けのものを拡充させていく計画でいらっしゃるのかと思うんですけれども、札幌って北海道の中で、都市部として企業がたくさん集まるところで、いわゆる大企業も中小企業も様々あると思います。その中でも、より一般的な企業が、そもそもダイバーシティとかジェンダーのことを社内の賃金格差や女性のキャリアアップ、採用のこと等知りたいと考えている企業に、情報をもっと提供していくとよいのではないでしょうか。

質の高い情報を確実に提供していくような機能を担っていかれるというか、そういう打ち出し方もできるのではないかなと考えています。

要はホクレンさんとか、そういった大きなところだけではなくて、一般的な企業さんのようなところにももっと知っていただいて、使っていただくというか、共に何かしていくために声がけしていただくということを広めていっていただきたいと感じました。

そういった BtoB のアプローチの仕方を来年度のお考えがあったらお聞かせいただきたいなと思いましたので、よろしくお願いいたします。

○事務局（橋本主任）

皆さんに集まって頂く企業向けセミナーの他にも、今お話しいただいたようなアウトリーチの取り組みも進めてきましたが、まだまだ知られていないという状況もあるかと思います。札幌市男女共同参画センターのホームページにも出張講座の申込ページを作成し、情報を手に取っていただきやすい環境を作りました。しかしまだ十分ではないと考えておりますので、こちらの方から情報を届けにいく取り組みも次年度進めていきたいと考えております。

○稲葉委員

ありがとうございます。プッシュ型で届けていくことは重要ですが、まずプル型で企業が必要だと思う情報を得られる、企業系セミナーみたいなものを企画して担当者、経営者、人事というとこ

ろが何を期待するかを把握して接点を作っていくということは何か考ていますでしょうか。
○事務局（橋本主任）
　女性リーダー養成研修は、管理職の方に理解を深めていただく女性リーダーを増やしていくという視点で、これまで実施してきましたが。今後は各企業が直面している人材不足や賃金格差といった具体的な課題にテーマを絞っての実施も考えていきたいと思います。ターゲットについても経営層か人事担当者かを明確に割り振り、より効果的なアプローチを行います。稲葉委員がおっしゃったようにまずは繋がってもらい、そこから個別のつながりを通じて提供していくといった視点も取り入れて実施していきたいと思います。ありがとうございます。
○稲葉委員
　ありがとうございます。
○事務局（伊藤主任）
　他にご質問はございますでしょうか？
○横山委員
　まず感想としては、本当にたくさんの事業を展開されて、しかも困難な状況にある女性から、企業における女性のリーダーシップっていう、その視野の広さを持ちながら、膨大な事業を展開されていて、本当に担当なさっている方、本当に頭が下がる思いで、素晴らしい活動だなと思いました。
　一つひとつお聞きしたいことはたくさんあるんですけれども、簡単にまず ３つだけお聞きします。
　１つは、困難な状況にある女性たちを視野に置いたものとして、例えばデジタル性暴力に関する取組ですとか、あるいは包括的な性教育に関するもの、あるいはガールズトークルーム。
　こういうものに注目をして見せていただいてたんですけれども、デジタル性暴力も包括的性教育も参加率が高いですよね。
　どうして、参加率が高かったんだろうか？ということと、ガールズトークルームはアウトリーチを強化されたということですけれども、１２月以降は参加者が二桁になって増えてますよね。これは何か取組があったからということなんでしょうか？というのが一つ目になります。
　それから２つ目は、調査研究業務っていうところをソーシャルアクションにつながるような、いわゆる国とか道とかがやっている大きな調査ではなく、身近なデータ分析のようなことを展開するご予定とかはあるのか、ここはもしかして弱いのかもしれないと思いました。
　そして ３点目。北海道も札幌も女性の外国人労働者は増えているのかなと思います。女性の外国人労働者に向けた何か取組み、これについての計画があるのかということをお聞きしたいと思います。
○事務局（橋本主任）
　デジタル性暴力の事業と包括的性教育の事業についてお答えします。
参加者が多く集まっていただいたということについては、事業の実施前に意識調査を実施したんですけれども、そこの中から課題感や実際にこういうところで困っているんだというところが、ある程度見えてきたというところがありました。それらをもとに計画した結果、求められているニーズに合った内容になっていたという点があるかと思います。

また、デジタル性暴力や包括的性教育は、社会の中での関心が高いテーマだと思いますので、今社会で求められていることをこのタイミングで展開できたというところも参加者が多かった理由の一つだと考えています。

ガールズトークルームについては、担当の佐藤からご説明させて頂きます。

○事務局（佐藤主任）

ガールズトークルームですが、4 プラの芝生エリアという場所に中高校生のターゲット層が集まってることが多いことを事前に調べており、4 プラでは 3 回実施し、平日が 17 時から 19 時の間、土曜日が 13 時から 16 時の間に対象の女子中高校生が、多く集まっていました。

芝生エリアではイベントをとして認識されたことが参加者数が増えた要因かなと思っております。

芝生エリアのところにあるサイネージで実施日や時間帯などを告知させていただいたことも参加者獲得につながったと考えております。

○事務局（橋本主任）

調査研究事業には、ジェンダー統計に関する研修会が主な実施内容になります。

当センターが中心となり、他自治体の男女共同参画センターを巻き込みながら実施をいたしました。

これからどんな取り組みが必要なのか、一緒に取り組みを進めることができるのではないか、という声も出ておりました。

横山委員がおっしゃるとおり、私たちの地域に根差した調査を行っていくことや、それを基にもっと必要な取り組みを進めていく、社会に届けていくようなことがあると考えておりますので、次年度以降も検討をしていきたいと考えています。

外国人労働者についての取り組みについては、今後も横山委員からいただいた視点も踏まえながら、複合差別という視点でもジェンダーと掛け合わせながら実施できるようなことも検討してまいります。

○事務局（伊藤主任）

ありがとうございます 。

波田地委員、よろしくお願いいたします。

○波田地委員

Asyl の波田地です。

稲葉委員と横山委員の話に関連してくると思いますが質問します。

稲葉委員が企業向けのセミナーのお話について触れられていらっしゃったと思うのですが、例えば調査研究で企業向けの意識調査などを行うことを通じて、それがアウトリーチとなってセミナーや研修に人を、参加者を引き込むというような導線を作ることも可能なのかと感じております。

私としても調査研究をフックにして、関心を持ってもらったり、参加してもらったり、コミットしてもらったりすることに繋がればよいと考えています。

その辺について考えていることがあればお聞かせいただきたです。

○事務局（橋本主任）
　調査研究については、まだ企業に向けた具体的な調査というところまでは進んでおりませんでした。
　しかし、稲葉委員や波田地委員からもお話しいただいたように、企業に調査を行うことがタッチポイントになるという視点もあると思います。調査研究を切り口に広い分野でいろんな取り組みが可能かと思いますので、地域に加えて企業などへという視点も取り入れていきたいと思います。ありがとうございます。
○波田地委員
　ありがとうございます。
○関口 裕士
　北海道新聞の関口です。本年度の事業の報告の中で、横山先生の質問、回答もあったのですが、ガールズトークルーム事業が、1月17日が２１人、12月23日１８人です。他の月は一桁だったりゼロだったりとかっていうこともあって、何か訴えかけ方の変化というか、どのような取り組みをされたので、増えたのかっていうのを知りたいです。次に包括的性教育はすごく素敵ないい取組だと思います。
　報告ではターゲット層という表現を皆さん使われていて、その参加者７０人の中に、若年層も教職員も保護者の方もいらっしゃるというような説明だったと思います。実際にはどういう方が参加されていて、どのくらいターゲット層に届いたというふうに考えられているのか、大人と子ども、どちらが多いのかなど知りたいです。
　理工系の進路を考える女子中高生のためのワークショップって、これもすごく素敵ないい取り組みですけども、参加者が少ない。中高生４人と保護者と教職員合わせ３人ですが、これは保護者が３人なのか、教職員が３人なのかで、まただいぶ印象が違ってくると思います。
　実際に、理工系、進路を考えている、高校生、女性っていうのは結構いらっしゃると思うんですが、実際にその各高校の、例えば進路指導の方のところにアプローチしているのか、広く、エルプラザのチラシで案内して、参加した数なのか、実際に高校の進路指導部なんかに投げかけてみれば、もう少し集まっても良さそうなという気がします。
　それぞれの事業について教えてください。
○事務局（佐藤主任）
　まず一つ目のご質問をいただいたガールズトークルームのところですが、12月13日までは、札幌市男女共同参画センターで実施しておりましたが、12月23日からは、4プラの芝生エリアの方で実施しまして、そこから参加人数が増えております。
○事務局（橋本主任）
　ご質問いただいた2点についてです。まず、包括的性教育のシンポジウムは、参加いただいた方の層としましては、先ほど若年層の方もいらっしゃったとお伝えはしましたが、やはり大人の方が参加は多かったです。
　私たちが一番届けたいターゲットも、子どもたちに様々な影響を与えるような大人の方にまずは

来ていただきたいというところがございました。特に家庭内での性教育に課題感を持っている保護者の方と、教育の中で課題感を持っている教職員の方というのが、一番来ていただきたかった層です。

すべての方は分かりませんが、教職員の方は学校名などを入れてお申し込みいただいた方もいらっしゃいまして、札幌もそうですし、札幌近郊、アンケートは北海道内の学校の教職員の方にお答えいただいています。オンラインでは、遠方の地域の方もご参加いただけた印象がございます。

理工系のワークショップについては、保護者の方と教職員の方の内訳としては、教職員の方が 1 名、あとは保護者の方にご参加いただいています。

保護者と参加をしてくれた方もいれば、お一人で参加いただいた中高生もいます。広報については、集客という意味で課題となるようなところがいくつかあったと感じているんですけども、学校に対してのアプローチとしては、関口委員がおっしゃったような進路指導の部分にはアプローチができませんでした。広く学校にご案内をしたり、教職員の方に直接メール等でご案内するというのが主でした。

ターゲットに合わせて、そういった広報をしていくというところの必要性は、今のお話も受けて感じたところでもあったので、次年度以降、どこにアプローチをしたらいいのかというところは検討しながら進めていきたいと考えております。

〇関口委員

包括的性教育に関しては、保護者の方、あるいは教職員の方に対して行うのと、未成年の方に行うので、内容が変わってくるんじゃないかと思います。

実際には未成年、十代の方はほとんどいらっしゃらなかったと考えてよいですか？

〇事務局（橋本主任）

包括的性教育のシンポジウムは、若年層、20 代の方ですとか、大学生ぐらいの年代の方が多かったです。

内容としては、今回は包括的性教の基礎をまずは正しく理解をしていただきたいというところがあったので、そこは年代にかかわらずご理解いただけるようなお話をさせていただきました。

また、シンポジウムの中では、取り組みをもうすでに進めている実践者の方がパネルトークという形で、地域の中でどんな取り組みをしているのか、その中から見える札幌や北海道の現状をお話しいただく部分が多かったので、実践事例から学びを得ていただけるような形にはできたと思っています。

〇事務局（菅原係長）

事業係の菅原です。皆さん貴重なご意見ありがとうございます。今いただいたご意見に対して、お伝えいたします。

まず一つ目の、今関口委員からもありましたターゲットの話です。この事業実施報告の一覧を見ると、一つひとつの事業が単発のような見え方になってしまうんですけど、実際の事業にはサイクルがあると思うのです。

事業が生まれて、それが成長し、それが成果が出てきて、最後は収束していく、そういう意味では、この性教育のというのは、この 2 年、会議をずっとやってきて、道内の実践者の方たちとの関係

性ができているということの意味が大きいです。

さらに、その実践者の方たちもそれぞれに保健師さんだったり、学校の先生だったりそれぞれコミュニティをお持ちなんですよね。性教育のシンポジウムの時にはそれらがすべて繋がって、たくさんの方が来られたと認識しています。

私どもの事業の中では、この性教育ですとか、起業支援も同様です。コワーキングスペースを運営してきたので、イベント打つときには、「あの人に来てほしいな」、「あの人はこの関心あるだろうな」、むしろ企画段階で「あの人のあの課題を解決できるような企画はできないだろうか」と考えます。熟度が進んでいる事業は比較的やりやすいです。

一方で、理系の事業も、今回は初めてのチャレンジだったっていうこともありますし、そもそも学生向けの取組みはコミュニティーを作りづらいです。卒業や就職、それに伴う移動もありますので、そういう意味では、私たちは限られた時間の中でどうやって課題をつかみ、それを伝えたい人に届けるというサイクルを回すというところが課題と考えています。

来年も理系の事業にはチャレンジしたいと考えていますので、今回つながったキーパーソンの方ときちんと関係性を作り、学校の進路指導の方のところに実際に伺うような形でこの事業を育てていきたいと考えています。

もう一つが調査研究の話です。横山委員のご指摘の通り、やっぱり私たちの苦手なところです。

他の事業習、ジェンダーイシューとか、就業・起業支援とかは、課題ベースなんですが、調査研究って手法の枠組みです。

すごくテーマ設定が難しいのと、私たち調査の専門性があるわけではないので、できるところは知れていると考えます。

それで今年は私たちの研修も兼ねて統計研修を行いました。また、NWEC（国立女性教育会館）にお世話になっていて、視察の受け入れをしたり、あと NWEC 主催の研修の中で情報提供させていただいたりしました。

NWEC もジェンダー統計に力を入れていますし、今後は地域とも一緒に共同して何かできないかっておっしゃっていたのでご相談させていただいたりしてきました。調査研究の土台になるところをきちんと身につけていくことを次年度取組んでいきたいと考えています。

一方で、やはり例えば大学とか地域の調査の専門性のあるところと連携することも必要だと考えています。

先ほど企業の調査のお話もあったんですけれども、どんなテーマがよいのか、センターとしてやるべき調査はどういうものなのかを考えていく必要があります。

例えば札幌市内の企業何千社に調査するみたいな話だと、札幌市さんがやられてるような既存の調査もあったりすると思いますので、そうではない、センターとしてやるべき大事な視点は何なんだろうかといったところは、次回以降皆さんにアドバイスいただけると嬉しいなと思いました。

長くなりましたが、ありがとうございます。

○青田委員

札幌市男女共同参画課青田でございます。

今、調査研究の話も出ておりましたけれども、札幌市では、ワーク・ライフ・バランスですとか、女性活躍に取り組んでいる企業を認証する企業認証制度というものを運用しておりまして、1,000 社を超える札幌市内に事業所のある企業にご登録いただいております。

昨年度、そういった企業を対象にアンケートを実施させていただいて、そこから企業が何を望んでいるかというところが明らかになってきたところでございます。

企業が求めているのが、同業他社がどんな先進的な取り組みをしているのか、他社の企業の取り組み内容を知りたいというニーズが結構ございまして、我々としてはその先進的な企業の取り組みをご紹介するような方法として、昨年は 7 つの企業・団体にインタビューをして、そのインタビュー記事を現在ホームページでご紹介しております。

また、今年度新たに実施した 3 つの企業・団体へのインタビューを加えた冊子を作り、セミナー等の機会を捉えて広く配布して、企業へアプローチしていくことを考えております。

なので、そういった我々が得た情報をセンターさんとも共有しながら、センターができない部分はこちらが補完して、逆にこちらができない部分はセンターさんなりの調査をしていただいて、二人三脚で協力できればいいなと考えております。

以上です。

○事務局（伊藤主任）

ありがとうございます。

ほかにご質問等ございますでしょうか。

（質問無し）

続きまして、意見交換会に入らせていただきます。

ここからは事務局の阿部が進行いたします。よろしくお願いいたします。

5 .意見交換会

○事務局（阿部主任）

阿部と申します。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

全体の終了を 11 時 50 分頃を目処に進めさせていただきます。

今日のテーマは「『自分事化』から始める、地域と組織のジェンダー主流化に向けた事業の展開について」です。

自分事化を中心に皆さんと一緒に考えていければと思っております。

日々様々な事業の展開しております。けれども、今届いているニーズというのは、すでに高い関心を持っている方だったりとか、ジェンダーの課題感に気づいている方っていう方が多いのかなと思っております。

一方で、 SNS だったりとか、日常の会話の中でジェンダーを巡る言葉が鋭かったりとか、価値観の分断が深まっているなとも感じております。

ただ、ジェンダーのことって何かのきっかけで、自分の話だなと気づくことがあったりして、そこから学びが広がっていくっていうことが多いと思っております。

今日はまだきっかけに出会っていない無関心層だったり、ジェンダーに対する抵抗を持っている

方々にどんなふうに切り込んでいけば、自分のこととして捉えていただけるのかということについて、皆さんからご意見をいただければと思っております。

本日は主に二点を中心にお伺いしたいと思っております。

まず一つ目、前半がジェンダーという言葉を前面に出さなかったり、テーマとして掲げずに、たくさんの、例えば三百人規模の規模な集客ができる事業の切り口とするときにどんなことが有効かということをぜひご発言いただければ思っております。

例えば、人材不足に悩む経営者だったりとか、将来に不安を感じている若手社員、人間関係に課題感を持っている市民の方など、対象を広げて皆さんからアイデアをいただければなというふうに思っております。

〇稲葉委員

稲葉でございます。今日は出てきてませんけど、菅原さんが前回の運営協議会でおっしゃっていただいている、ガラスの天井とべたつく床が上と下にあります。

ジェンダー主流化と、ガラスの天井とべたつく床は、別なアプローチがあるので、縦軸と横軸の関係になっていると思います。

いわゆるジェンダー主流化なんですけど、ジェンダーという名前を出さないで主流化を広めていって、それが自分事のように、ちゃんと感じて、明確な意識ではないけれども、暗黙の中で感じて帰ってもらうというな設計なのかなと感じました。

その中で私、先ほどの質問の中では、ガラスの天井側の質問をさせていただきまして、横山先生などはべたつく床側の質問というふうに、それぞれの委員の立ち位置から、バランスの良い質問だったのかと思うんですけども、ガラスの天井側は、いわゆる企業の経営課題とか人材確保の課題という一般的なビジネスセミナーで、何か提供していく、講師の方などもきちっと用意すれば、カンファレンスのような形はできて、その中でジェンダー主流化を入れ込むということはできるのかなと感じました。

一方で、べたつく床は BtoC に本当になっていって、それがアウトリーチで見えない方たち、私たちの取り組みがさらに届かないような方たちをどういうふうにアプローチしていくのかというところなので、すごく難しいのかなと思うんです。

その中で思うのが、札幌市内、様々な社会活動と呼べるような取り組みがあると思います。

例えば札幌のレインボープライドなども、非常に大きくかつ質の高いセミナーやいろんなゲストなども来ていたところもありましたし、あとは様々な、例えば、貧困状態に置かれている方に対するアプローチの施策、夜のパン屋さんとかですね、あったりするところも見たり、参加したりしております。

そういったものとうまく絡めていきながら、他の課題に関して、しっかりアプローチをしてその中から引っかかってくると感じてる方、レインボープライドはジェンダーの課題ですよ、それ以外のものも実はここジェンダーだよと前回はフェアトレードの件を挙げたかと思うんですけど、そういったものとコラボをしていって、自分ごとかというか、ジェンダー主流、違う課題からでもジェンダーが関係してるんだというところで、主流化の流れの意識をしていただくというのはすごくやっていきやすいし、札幌全体をより住みやすい街にしていくということになるのかなと思うので、

外に出てってコラボを持ちかけていく、場合によっては場所をうまく活用してもらうということを営業していく、呼びかけていく施策がいいんではないかなと感じました。

ありがとうございます。

○波田地委員

Ａｓｙｌの波田地です。本当はなんかこういうのがあるんじゃない？ってこうバシッと言えたらすごく良かったんですけど、ごめんなさい。ひねり出てこなくて。

きっとその、先ほどの報告にもあった、例えば元々YouTube チャンネルにつながってた方々が集まる側面だったりとか、今までにない層に届く可能性があるのかそこにヒントを感じまして私があんまりそういう領域に詳しくないので有益なこと言えてない感じがするんですけれども、もともとフォロワーがついてるような方とコラボしていって、すごくキャッチーでポップな入り口だったら、行こうかなって思う方もいらっしゃるのかなと考えました。

○関口委員

北海道新聞の関口です。

自分事として考えるとか、関心を持とう、無関心でいてはダメだっていうことを私たち新聞記事でも散々今までも書いてきたんですけど、やっぱりなかなか難しくて。

例えば、戦争でウクライナとかガザとかあっても、なかなか関心を持たないっていうところがあって。

あるいは私は昨日まで福島にいて、3.11 から 15 年の取材をずっとしてたんですけど、原発事故のことも含めてもう皆さん忘れてるし、なかなか関心を持たないっていう。自分事化は、解決策ではないですが、やっぱり難しいなというのがすごくあるんです。

例えば戦争で言えば、今イランをアメリカがイスラエルと攻撃してホルムズ海峡が封鎖されて、いよいよ原油が上がってくるんじゃないかと。そうすると、車乗る人はガソリン代も上がるだろうと。

あるいは昔のようにティッシュペーパーが売り切れになるんじゃないかと。そこまで来ると、さすがに自分事として多くの人が関心を持つんだと思うんですけど。

例えば、ジェンダーのことでも、こういうことを放置したら、こういうことを許してしまってたら、こんなことが自分の身にも降りかかるよっていうことがをやっぱり伝えないと、なかなか自分事にはならないのかなっていうのをつくづく最近思っています。

何の解決策でも何でもないんですけど、自分事とするの難しいなという意見だけでした。

ありがとうございます。

○横山委員

ちょっと悩み込んでしまうようなテーマだったんですけれども。誰もが当事者となる、私が自分事にできることは何だろうかって。

もし関心がなかったとして、何だろうかと思った時に、最近一つ考えるのは防災っていうことなんですね。その防災ってなった時、日本は北海道もそうですけども、いろんな地震もあり、雪害もあり、水害もありで、その時にじゃあ避難所とか家で過ごすとか、いろんな情報に触れてるわけです。

人によっていろいろだし、避難所で起こるジェンダーのいろんな課題もたくさんあるってことがわかっていて。そういう弱者に立ちがちな人たちも分かっていますよね。

防災っていう切り口だと、みんなが今ちょっとやらなきゃみたいになっているのかなというテーマです。

具体的な例でいうと、防災でどんなことが必要だろうみたいなワークショップっていろいろやられてますよね。そこを取り上げるのがセンターさんの役割ではなくて、そこにどんなジェンダーの問題、課題が現れるんだろうかっていう部分でコミットしていくようなアクションがあるといい。

例えば生理用ナプキンとかトイレの問題とか、妊婦さんどうする？とか着替えのときどうする？とか、そういう細かいところに多分すぐぶち当たるので、そこで何かできないのかなっていうこと。

もう一つは、ご近所さんとのお付き合いでも、同僚との付き合いでも、いろんなところでもいろいろ面倒くさいコミュニケーションっていっぱいありますよね。

クライエントさんの中でも、職員でも教職員でも先生方なんか非常に癖いっぱいありますので、いろいろ面倒くさいコミュニケーションみたいなところから、なんか例えばこういう言い方したら、今はハラスメントで、昭和のコミュニケーションでは成り立ってたことが裏側にあったり。

あるいは最近私、個人的に関わってますけれども、ミスジェンダリング、男女に見えるから男性ですよねって言ったら、違ったことでかなり大きな問題になるとか。

あるいは言葉そのものが男言葉として作られてきているとか、コミュニケーションのあり方がすでにもうジェンダー化されてるみたいな気づきとか、めんどくさいコミュニケーションっていうことをもうみんなみんなどこかで経験しているし、でもここにあるように三百人規模って言われるとそれは難しいかなと思ったりね。

とりあえずそんなことを考えながら今日まで過ごしておりました。

ありがとうございます。

〇波田地委員

二回目になってしまうんですけど、今皆さんのお話を聞きながら、２つ思いついたことがあったんで申し上げたいと思ってまして。まず自分ごとってなった時に、さっき横山さんが防災のお話してくださったんですけど、私、やっぱり誰にとっても自分ごとになるのって、進路とか就職のことだなって思ったんです。

例えば就活ってなるとほとんどの方に関係があって、大学生だったり専門学校生だったりをターゲットにしたものになると思うんですけど。

ジェンダーにすごく先進的な取り組みをしている企業、例えば道内企業でもいいと思うんですけども、そういう企業の就活フェアみたいに就活エキシビジョン。学生がこれから就職するけど、なんかいろいろ暗い話や、ガラスの天井があるって話も聞くし、どうなるんだろうと不安になったときに、このチラシを見て、あ、ジェンダーに先進的な企業が紹介されているものがあるんだ、ちょっと行ってみようかなって私だったらなるなって思ったんですよね。

私昨年 11 月にデフリンピックのボランティア参加したんです。耳が聞こえない方たちのオリンピックなんですけども。

そこでも展示だったんですが、技術で聴覚障がいを乗り越えるっていうところで、いろいろなベンチャー企業が耳の聞こえない方の聞こえなさを、解決するような技術だったり製品を紹介しているエキシビションがあってですね、すごく楽しかったんですよ。

よく聴覚障がいというと、例えば聞こえない、かわいそうだったりとか、あるいは運動として権利を獲得していく。そのために不平等差別のことだったりを訴えていくって、ちょっとそれに対して遠慮してしまう人たちもいたりする中で、むしろ技術で解決するってすごくポジティブな印象で一般の市民としてはきっとすごく入りやすかっただろうなと思ってですね、実際行くとすごく楽しい。こんな技術があるんだとか、未来をすごく感じるような技術があったりして。

そこでフェムテックっていうものも今はあると思うんですよね。

女性の例えば生理のことだったりとか、更年期のことだったりとか、女性に限らず、ジェンダーというと女性に限らないことではあると思うんですけども。

そういうテクノロジーとジェンダーっていうところでの、展覧会のようなものを私はイメージしてるんです。

そういうものって私はぜひ行ってみたいなと思いますし、例えば理系の女子とかも技術、自分の研究分野がこういうふうにもしかしたらなるかもしれない。

こういうふうに自分が課題解決に貢献できるかもしれないっていう、一つのインスピレーションを与えたりするようなものにもなりうるんじゃないかなと思ったりします。

そんなこと二つ思い浮かんだというのでシェアさせていただきました。ありがとうございます。

〇稲葉委員

波田地さんの話を受けながらですけど、この間私もニューレールの交流会参加させていただきましたが、そこのところでもジェンダーやダイバーシティなどを推進している企業の就活フェアとか、やれないかみたいな話はすごく盛り上がってます。東京の方では NPO、特に LGBT やマイノリティの方を支援するような就職支援する NPO がセクシュアルマイノリティだけではなくて、障がいであったりとか、外国籍の方、多様なマイノリティ性を持つというか、そういった方たちの支援団体と一緒に連携しながら、こういったことをちゃんと見据えて個別対応してくれるような企業さんを集めたフェアというものをやっていて、ものすごく人が来たりするので、企業活動なので、難しい部分はあるかなと思うんですけど、場を作ってみるとか、何か促すということはできるのかもというところは感じました。

もう一つ、フェムテックに関してですけど、東京でもコンドームを集めた展示会っていうのを新宿でやっていて、もうずっともう満員なのです。さまざまなフェムテックのものがありますけど、その展示会はそれでも各国いろんなコンドームだけっていうものでして、展示とかキャッチーなものから人を集めていく。

包括的性教育が注目度高いっていうのが今年度の実績の中でも出てたと思うので、それをうまく継ぐような形で、コンドームや月経カップであったりとか、そういったものを広めていく。まだまだ札幌でも実物見たことがないとか、売ってる場所もまだ多くはないと思います。

緊急避妊薬は札幌市で売ってない状態。そういったところから市全体に何かアプローチしていくことはできるかなと思いました。

あと横山先生の話の中で防災の話がありましたけれど、一応俎上にだけ出しておこうと思って、人の耳目が集まるようなものというのは、人が集まったり、情報を取ったりとか考えようっていうことが多くあると思いまして。

そういった耳目を集まるもの、集めるものにジェンダーが関わっているんだよっていうふうな切り口で見ていくっていうのは面白いのかと思うのです。

例えばクマとジェンダーとかですね、豪雪とジェンダーとかですね、それで飛行機が飛ばないこととジェンダー。みんなで集まって、この話題になっているものをジェンダー視点から考えてみようみたいな交流会というか、お話し会みたいなものをやっていくと、今話題になっているものでも、ジェンダーって関わりがある、かつ話題になっているので、人が集まりやすいとか、ニュース性がありそういったことができるんではないかなと思いました。

最後にどこで言おうかなと思いながら控えてたんですけども、私、中富良野の方でも仕事をしておりますが、やっぱり札幌は市でありながら市ではないというか、北海道全人口の中の 40%が集まっています。菅原さんもよくおっしゃってますが、人口がものすごく流出して札幌に出て行って、さらに、札幌からものすごく人が、特に女性が流出しているというな危機的な課題は、やっぱり通底して持っていただきたいなと思ってですね。

そうすると、札幌市にいる中でも各市町村から札幌に来ている方に向けて、何かメッセージを発するような企画みたいのも、自分事というか、自分の人生賭けて来てると思うんで、そこで何か生まれ故郷のところの市町村と札幌との実際のものを見て、さまざまなことを考えて、そこでやっぱり幻滅して、さらに東京に出ていってしまう可能性があるんだとしたら、なんかそこら辺をすくい上げるものというのがあると思います。

これはマスではなくて地道な活動になっちゃうかもしれませんけど、そんなこともしもし可能であったらやっていただけると非常に自分事化は進むのかも。その人にとっての自分事化と、北海道全体にとっても良い何か効果などが発生するのではないかなと思いました。

すいません、長くなりました。ありがとうございます。

〇事務局（阿部主任）

一回目の運営協議会の際にもジェンダーと別のテーマを掛け合わせるっていうご意見とかもいただいてたので、来年度、ジェンダーイシューという事業だったりとか、子ども若者のエンパワーメント事業のようなところで、たくさんの集客事業があるので、そこの企画のヒントにさせていただきたいなと思っております。

〇事務局（阿部主任）

次に、事業を実施した時アウトカムを必ず設計しているんですけど、関心の高いテーマで企画をして具体的なアクションにつながるような仕掛けについてもご意見をいただければと思っておりました。いかがでしょうか。

○横山委員

これもまたなかなか難しい。例えば防災ということでジェンダーに掛け合わせて何かをしたときに、避難所におけるジェンダーセンシティブな配慮をするための、チェックリストとして置いときたいねみたいな、ことでいいと思うんですけれども。

それをワークショップでみんなで作ってみる。避難所で優先度の高いものから十項目出して、それを成果として作ってみるとか、そういうことは考えられるかなと思いました。

あるいはチェックリストを作らないまでも、そういうセンシティブな感覚って必要なんだよみたいなポスターを作ってみるとか。

○関口委員

今、横山先生の話で思ったんですけど、女性の首長さんの記事を載せるんですけど、そこで青森で初めて女性の市長になった十和田市長というのは、私インタビューした時におっしゃってたのが、女性が首長になって何が変わるかっていうのは、特に防災。

彼女は元自衛隊の出身なんですけど、被災した時の女性の気持ちが分かると。先ほども出てる生理用品のこととかですね、避難所に生理用品を配布するだとか、あるいは着替えのスペースもそうだし、もっと言えば化粧できるところとかですね、そういうもの、あるいは乳液とか化粧液もちゃんと配られるかとかですね、そういうことに目が配れるっていうのが、女性が首長になることの最大の利点だっていうようなことをおっしゃっていて。

あとトイレのことも結構おっしゃってましたね。

先ほどの横山先生のお話でいけば、そのポスターでもチラシでもいいんですけど、ワークショップか何かした時、実際にそのこんなことが困るよね、こんな配慮があれば嬉しいよねっていうのを皆さんに出してもらって、それを一覧にしてそういうのを作るだけでもすごく、皆さんの共通認識にもなるし、それを行政に届けることによって、男中心のその行政の中では気づかないこういうことが必要なんだっていうことが多分すごく伝わるんじゃないかなと思いました。

○稲葉委員

発言させていただきます。ちょっと乱暴な言い方、そんなにアウトカムの設計にこだわる必要はないんじゃないかとに考えておりまして、やっぱここまで設計して、丁寧にとか、手取り足取り面倒を見てあげる必要はないというか、来る方が多様だと思いますし、事業というのは多岐に渡ると思います。

一つひとつに関し、アウトカムを丁寧に設計しているところまでエネルギーを注いでいると、多様な情報や多様な人にアプローチしなきゃいけないという、入口部分のエネルギーっていうのが、どうしても削がれると思います。あと来る方はその中で何か得ていくんであれば、大人なのでという言い方は乱暴ですけれど、自分で考える人は考えて動くし、一生懸命こちらがしても、それでも動かない人は動かないと思いますので、そこまで考えすぎる必要はない、エネルギーを注ぐ必要はないなと思いつつ、それでも多様なことをやってます。

一つのテーマで女性社員の採用とか、人事課題みたいなももっと、例えばセクシュアルマイノリティの外国籍の女性の就労についてとかですね、そういった課題にパンフレットとか何を見、こっちのものも隣接してるんだなっていうふうに思って、この企画に帰ってきてくれるという、そうい

うリピート率みたいなものを上げていく、そういうふうにしていくと、もっといろんなジェンダーについて考えてもらえ、そのうちいくつか自分の参加者の中で自分なりの視点っていうのが育っていくと、そのうち自走していくということもあると思います。一回の企画の中で次どういうふうに行動してもらおうではなくて、何回も来て、イベントとしてはまた来てねをやり続けるっていうところで、自然ときちっとしたアウトカムからの効果というものが出くると、私としては感じました。

ありがとうございます。

〇事務局（阿部主任）

稲葉委員もおっしゃってましたけど、ガラスの天井とべたつく床の両方のアプローチをしていけるっていうところがすごく強みだなと思っていますので、構造的にアプローチできるような形で、事業を来年度も実施していきたいなと思っております。

〇事務局（伊藤主任）

それでは以上をもちまして、意見交換の時間を終了とさせていただきます。皆さん貴重なご意見いただきましてありがとうございました。

最後になりますが、札幌市男女共同参画センターの所管課となります、札幌市市民文化局市民生活部男女共同参画室男女共同参画課課長の青田委員よりご挨拶をいただければと思います。

〇青田委員

改めまして、札幌市男女共同参画課青田でございます。皆様、本日は長時間にわたり、ありがとうございました。

前回もこの協議会の中で、皆様からたくさんのご意見を頂戴いたしまして、その内容をきちんと検討して、可能な限り反映させた形で、来年度の事業計画に盛り込んでいただいていたと思います

活動協会の職員の皆様、本当にありがとうございました。

また、本日も各委員の皆様から参考になるご意見をたくさんいただきました。特に後半の意見交換は難しいテーマだったと思い、どうなるんだろうとちょっと心配していた部分もあったんですけれども、防災をはじめ、様々なテーマとのコラボですとか、なかなか興味深い話をたくさん聞かせていただいたなと思っております。

これらの意見についてセンターに対するご意見でもありますけれども、我々札幌市へのご意見でもあるのかなとはおります。現在、札幌市は第 1 回定例市議会の中で来年度の予算案の審議を行っている最中でございます。

札幌市も大変厳しい財政状況の中で、当課としても限られた予算の中で事業内容を工夫しながら、事業の質は落とさないように、予算編成を行っているところでございます。

我々だけの取り組みでは、このジェンダー平等や、男女共同参画の推進という、大きな大きなテーマを推進していくことは、かなり難しいというように感じておりますので、皆様のお力添えのもと、引き続き、この男女共同参画センターの活動協会の皆様と、札幌市が連携して取り組みを進めていきたいと考えております。今後とも、皆様からのご支援とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、最後のご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。

○事務局（伊藤主任）

委員の皆様は、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。　今回の議事要旨につきましては、皆様に内容をご確認いただいた後、男女共同参画センターホームページに掲載させていただきます。

最後になりますが、令和 8 年度の運営協議会ですが、委員の皆様のご意見をより事業に反映させていただくことを目的に、会の実施時期の変更を予定しております。

具体的には、 第 1 回目を 6 月、第 2 回目を 12 月に実施する予定でございます。

近くなりましたら、日程の調整をさせていただきますが、あらかじめご予定いただければ幸いです。

それでは以上をもちまして、令和 7 年度第 2 回運営協議会を終了いたします。

皆様、本日は誠にありがとうございました。